◆日根野聖子　選

三月二十六日～二十七日に山口県下松市で「八木健と廻る回天・笠戸島俳句紀行」が開催され、山口、広島などからおよそ五十名の参加がありました。米泉（べいせん）湖や、高級魚の養殖・稚魚の放流を行っている栽培漁業センター、人間魚雷・回天記念館など、桜の咲き始めた名所を吟行、観光しました。

もうちょっとと言ひつつ仰ぐ桜かな　　飯野幸雄

飯野さんは、滑稽俳句協会の会員で会報を第一号から全て大切に保管してくださっているとか。八木会長が来ると知って、広島から駈けつけてくださいました。

山桜吟行終えて健胃錠　　中川房子

この句は、折句になっています。山の「や」吟行の「ぎ」そして「健」で、「八木健」です。

歓迎の気持ちの溢れる挨拶句をたくさんの方が詠んでくださいました。

こぶし咲く八木健さんの杖の先　　上重石峰

上重さんは、米泉湖で皆さんに、名酒「獺祭」をふるまってくださいました。獺祭は、山口県の旭酒造のお酒ですが、社長の桜井博志さんは、松山商科大学（現・松山大学）のご卒業で愛媛に縁のある方だと教えていただきました。

獺祭は、蔵元の地名の「獺越（おそごえ）」から一字をとった命名ですが、獺祭書屋主人とも号した正岡子規が文学に革新を起こしたように酒造り、日本酒に変革、革新を起して優れたお酒を造りたいという思いが込められているそうです。

山笑う眉よせて読む文学碑　　高塚すず

米泉湖にはおよそ二五〇基の句碑、歌碑、詩碑が建てられていました。中には判読し辛い書体の碑もありましたが、その読み難さを「眉よせる」

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

で見事に写生。

春麗大根足の足湯かな　　白石冴子

笠戸島の公園の足湯での風景。のどかな春の一日が楽しく記録されました。この句は八木健選にもなりました。夜の懇親会で偶然お隣になりましたが、初日の八木会長の講演の中では、「俳句で自分史」に関心をもたれていました。

下松市は、人口が微増していて、住みやすさランキングでも常に上位に入る町なのだそうです。なるほど、こんなに美しい自然環境と綺麗な水があり人が良ければ、住んでみたくなるのも納得の旅でした。

◆梅岡菊子　選　～滑稽俳句協会会報より～

永田町周辺年中万愚節　　横山喜三郎

俳句は瞬間を詠むものなので、この句は「年中」としているので俳句ではないと思いました。ところが横山さんは万愚節にこの句を詠んだのです。そして永田町周辺、つまり国会というところは一年中「嘘」ついていると皮肉を言ったのでしょう。川柳としても面白い。

鳴き終へし蝉の弔い蟻の列　　池田虎二

落蝉を蟻が引いて行く風景だと思います。鳴き終わるのを待っていたかのように。つまり、蟻は蝉の断末魔の鳴き声に耳を澄ませていたかのように落蝉を処理するのです。私はこの自然界の厳しさに「滑稽」を感じます。落蝉に風情を感じて「季語」にしたり「俳句」に詠むのは日本人だけでしょう。

金塊を掘り出す如く栗ごはん　　久我正明

童の心が溢れています。童子は金塊よりも金塊に似た「栗」のほうが喜ぶということを言っています。栗の方が大切なのですね。如くと書い

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

ています。俳句では「やうに」「ごとく」は使わないように指導されます。「金塊の栗を掘り出す栗ごはん」。ところがこの句は童心でなく「大人」と見たらもっと面白い。つまり、栗が金塊に見えたという正直な作者の気持ちだと思います。

十万の人出に耐へてチューリップ　　山本賜

　擬人化は滑稽の方法だと常々、八木会長が述べていらっしゃいますが、この句は見事な擬人化で面白くなっています。

逆引きの辞書をひもとく戻り梅雨　　八州忙閑

「逆引き」「戻り梅雨」とても洒落た句です。
戻り梅雨の意味を逆引きの辞書で確かめている風景がなんとも可笑しいですね。

寄合うて列島ちぢむ寒波かな　　金澤健

大きなスケールの句です。日本列島に寒波襲来。日本中が寄り合って寒さをしのいでいる様子に可笑しさがあります。四島が肩を寄せ合っているとしたら「縮む」がはっきり見えてきます。作者にとって日本列島は可愛い存在なのでしょう。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。